



正

実用新案登録願

昭和52年3月3日

特許庁長官 片山石郎 殿

1. 考案の名称

密閉容器

2. 考案者

住 所 埼玉県北葛飾郡荒川町上内698

氏 名 佐藤光弘

3. 実用新案登録出願人

住 所 東京都新宿区市谷加賀町1-12

名 称 (289) 大日本印刷株式会社

代表者 北島織衛



4. 代理人

住 所 〒162 東京都新宿区市谷加賀町1-12

大日本印刷株式会社内 Tel 266-2570

氏 名 (7258) 弁理士 小西淳美

5. 添附書類の目録

(1) 明細書	1通	(2) 図面	1通
(3) 願書副本	1通	(4) 委任状	1通
(5) 出願審査請求書		1通	

方
査
審

52 040230

13-126944

明細書

1 考案の名称

密閉容器

2 実用新案登録請求の範囲

(1) 液体を充填密閉したブロー成形法による容器において、当該容器は膨出頭部を備え、かつ当該膨出頭部は他の部分よりも薄肉に形成して針様の物体で穿孔しやすくなるようにした密閉容器。

(2) 密閉容器は目薬容器であり、膨出頭部の下方に雄ネジを備え、かつ当該雄ネジと係合する雌ネジを有すると共に天井には上記膨出頭部を穿孔する針を有する蓋を備えてなる実用新案登録請求の範囲第(1)項記載の密閉容器。

(3) 密閉容器はアンプルである実用新案登録請求の範囲第(1)項記載の密閉容器。

3 考案の詳細な説明

本考案はブロー成形法によつて製造される容器であつて、内容液を充填した後は外気と完全に遮断してなる容器に関するものである。

一般に外用薬、内用薬等の液状医薬品はガラス瓶に充填されている。例えば目薬液はガラス瓶に入れられ、その注出のためにびんとは別体の注出口が装着されその上からネジ込み式の蓋が被せられている。従つて内容液の密閉性を完全に行なうことができず、薬局等で保管中に変質してしまうおそれがある。

また注射液はガラス製のアンプルに充填されている。従つてこの場合は密閉性は完全に保たれるものの、アンプルの頸部を折つて開口し注射器で液を吸い上げるとき、ガラスの細かな破片まで吸い上げてしまい、人体内にまで注射液と共にガラス片を注射してしまうおそれがある。

本考案は以上のような従来の液状医薬の容器が有する欠点を解消するためになされたもので、容器をブロー成形して口部を他の部分と一体の樹脂であらかじめ密閉しておき、内容液を底部から充填した後はその部分を融着してしまつて内部を外気と完全に遮断できるようにし、さらには使用にあたつて開口しやすいように注出口を形成すべき膨出頭部を薄内に形成してなるも

のである。

以下図面を用いて本考案の実用例につき詳細な説明を行なう。

第1図乃至第3図は目薬液の容器10を示し、第1図において容器はプロー成形法によつて膨出頭部12、首部14、胴部16及び底部18が一体的に成形されている。

底部18はプロー成形完了の段階ではそこにチューブ体(図示せず)が付属しており、チューブ体から目薬が充填された後はそこで離着され余剰部は切落される。首部14には端ネジ20が設けられており、そこに蓋22が被せられている。

蓋22は胴部24と天井26を備えており、胴部24内側には前記端ネジ20と係合する端ネジ28が形成され天井26には前記膨出頭部12に対向する錐体形の針30が蓋22と同一材質で形成されている。

また、胴部24の下部には環状構で図示された切除帯32が設けられており、この切除帯の部分だけ前記針30は膨出頭部12から離つてい

る。

切除帯32の始端には切除を行ないやすくするためつまみ片34が設けられている。この切除帯32は蓋33とは別体としてリンク状に形成し、蓋と容器との間に単に介在しておいてもよい。

第2図は第1図示の状態の蓋33から切除帯32を除去し、蓋をさらにネジ込むことによつて膨出頭部12の穿孔を行なう状態を示している。本考案においては膨出頭部12をブロー成形後ヤスリかけ、バフ加工することによつて他の部分よりも薄肉にかつ大きな湾曲面もしくは平坦面に形成している。

従つて第2図示の如く穿孔する場合、たやすくその作業を行ないうると共に針30が樹脂のよくな柔らかい物質でできいても、欠損したり折れ曲がつたりすることがないのである。

また、膨出頭部12を薄くしているために第3図の如く針30により穿孔した場合、孔36の周辺はすり鉢状にくぼむこととなり、目蓋をさすときそのすり鉢部のおかげで液漏38ができる

やすいようになる。

次に、本考案をアンブルに適用した場合について第4図にもとづいて説明する。

このアンブル⁴もブロー成形によつて製造され、底部⁴⁻²にはチューブ状の充填口（図示せず）があらかじめ設けられており、そこから注射液が充填された後は融着され余剰部は切除される。

そして膨出頭部⁴⁻¹はヤスリがけ、バフ加工などによつて薄肉状にかつ上面は大なる曲率半径を有する面に形成され、注射針がそこに突き立ちやすいよう工夫されている。

なお、この場合くびれの部分⁴⁻⁶で上部⁴⁻⁸を折る必要がなければアンブルの形状は太鼓形、円柱形、円錐台形にしてもよい。

さて、本考案は上述の如く、液体を一旦充填密封した後は外界と完全に遮断できるものであり。しかもその翻側に際しては蓋に接着した樹脂製の針とか、注射針とかの強度の低いものによつても穿孔できるよう工夫してなるから、医薬品に適用して有効である。

また、本考案を目薬容器に適用した場合はその穿孔に際してすり鉢形のくぼみを形成しうるので、液は孔近辺にて水玉を形成しやすくなり、目に薬を滴下するについて非常に都合がよくなる。

さらに本考案をアンプルに適用した場合には従来のごときガラス片が注射液に混入するような不具合は皆無となり、またくびれなどもなくして形状を簡素化しうる等種々の効果を奏することができるものである。

※図面の簡単な説明

第1図乃至第3図は本考案に係る容器の第一実施例を示し、第1図はその開封前の部分切欠正面図、第2図は開封後の部分切欠正面図、第3図は開口部から内容液を滴下させる状態を示す部分拡大断面図である。

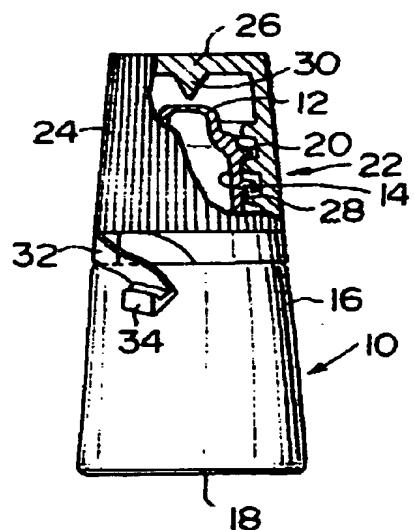
第4図は第二実施例を示す部分切欠正面図である。

10.....目薬容器	12.....排出頭部
22.....蓋	26.....天井
30.....斜	36.....孔

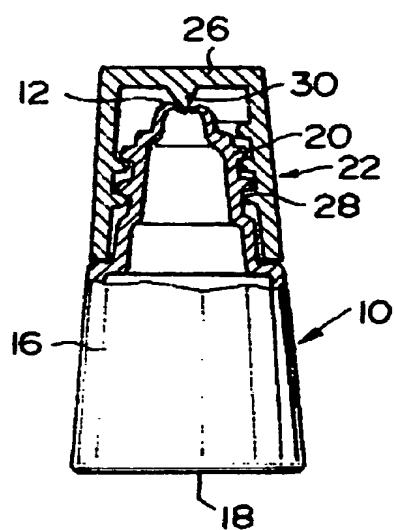
38·····液 滴 40·····アンブル
42·····膨出頭部

实用新案登録出願人 大日本印刷株式会社
代理人 弁護士 小 西 淳 美

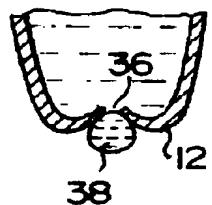
第 1 図



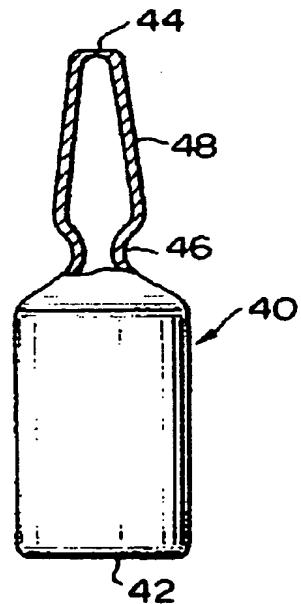
第 2 図



第 3 図



第 4 図



136944

実用新案登録出願人 大日本印刷株式会社

代理人 弁理士 小西淳美